

会議報告

さけます報告会

たかはし まさや
高橋 昌也 (水産資源研究所さけます部門 資源増殖部)

はじめに

「さけます報告会」は、さけます類のふ化放流を科学的かつ効果的に推進し、ふ化放流技術等の普及や改善を促すことを目的に、2016年から毎年開催して来ました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、2020年、2021年と2年連続で開催を見合わせていました。2022年は、コロナの感染状況を見据えつつ、会場での参加人数を出来るだけ少なくするとともに、Web中継による参加を併用することで、何とか3年ぶりの開催に漕ぎつけることが出来ました。

今回は、さけますふ化放流事業に関係する行政機関、試験研究機関、増殖団体、漁業者、当機構内関係部署等230名(会場参加80名、Web参加150名)の参加の元、2022年8月9日に札幌市を会場として開催しました。主催者である水産資源研究所さけます部門(以下、さけます部門)藤井部門長の挨拶に続き、来賓を代表して水産庁増殖推進部栽培増殖課の櫻井課長からご挨拶をいただいた後、7つの課題について報告を行いました。

1. 2021年漁期におけるサケ資源状況について

水産資源研究所さけます部門資源生態部の本田部長から、同日午前で開催された「さけます関係研究開発推進会議」における昨年漁期のサケ資源状況にかかる議論の概要が報告されました。詳細については、本誌「さけます関係研究開発等推進会議 研究部会」の項を参照下さい。



写真1. 「さけます報告会」全景



写真2. 主催者挨拶：さけます部門 藤井部門長



写真3. 来賓挨拶：水産庁栽培増殖課 櫻井課長



写真4. さけます部門 本田資源生態部長

2. 北太平洋におけるさけます資源状況と2021年夏季ベーリング海調査結果

さけます部門資源管理グループの佐藤グループ長から、北太平洋における2021年のさけます類

の商業漁獲は前年よりも 39.4 万トン多い 100.0 万トンとなり、特にカラフトマスについては統計が残っている 1925 年以降最多となったことが報告されました。

2021 年のベーリング海調査では、サケの採集尾数が 2007 年の調査開始以降最小となり、その要因として 2 年魚の採集尾数が前年の 54% 程度と大きく減少したことが考えられること、採集したサケの起源を遺伝学的手法で推定した結果では、ロシア系が 62.7% で最も多く、次いで日本系が 29.9% であったこと等が報告されました。

3. 今年の秋サケ来遊見通しについて（北海道）

北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場さけます資源部の畑山部長から、2021 年の全道への秋サケ来遊数は 1,863 万尾であり、前年よりも僅かに増加したこと、年齢別に見ると 4 年魚（2017 年生まれ）及び 5 年魚（2016 年生まれ）はともに平成以降 3 番めに少ない値だった一方で 3 年魚（2018 年生まれ）は平成以降の平均値を 19% 上回ったことが報告されました。また、2022 年の来遊見通しは、4 年魚が平成以降の平均値の 6 割程度、5 年魚が同じく 3 割程度となり、全体では 2,052 万尾と、前年を若干上回る見込みであること等が報告されました。

4. 近年の北日本周辺における海洋環境について

水産資源研究センター海洋環境部寒流第 1 グループの黒田グループ長から、主に北海道太平洋海域における近年の海洋環境に関して、主要な海流の状態ならびに近年頻発する特異現象という視点からの報告がありました。海流の状態に関しては、2010 年代中盤以降、北西太平洋における西部亜寒帯循環が強くなっている一方で、その循環境界が南に張り出さないため、夏～秋季に道東陸棚斜面を横切る親潮の弱勢が続いていること、一方冬～春季の東樺太海流及び沿岸親潮については、2010 年代中盤に最も強くなり、1980 年代に匹敵する低水温となったこと、その強勢の傾向は 2016 年以降解消されたと思われていたが、2022 年に再び強まったこと等が報告されました。近年頻発する特異現象に関しては、2016 年に観測された極端に接岸する暖水塊と記録的な豪雨、2021 年に観測された観測史上最大級の海洋熱波と道東海域における前例のない大規模な赤潮の発生についての報告がありました。



写真 5. さけます部門 佐藤環境保全グループ長



写真 6. さけます・内水面水産試験場 畑山さけます資源部長



写真 7. 水産資源研究センター 黒田寒流第 1 グループ長

5. 耳石標識で得られた知見を活用した取り組みについて

さけます部門資源増殖部技術課の高橋課長（注：本稿の筆者）から、我が国で行われてきたサケの耳石温度標識放流の経緯と、蓄積されたデータを元に、さけます部門所属の事業所で取り組んでいる回帰効果向上のための取り組みについての報告がありました。



写真 8. さけます部門 高橋技術課長

6. サケの回帰状況と放流への取り組み～伊茶仁・十勝さけます事業所～

さけます部門根室さけます事業所の江田主任技術員から、北海道根室海区及びえりも以東海区におけるサケの回帰状況と、伊茶仁さけます事業所及び十勝さけます事業所における回帰効果向上のための取り組みについての報告がありました。



写真 9. さけます部門根室さけます事業所 江田主任技術員

7. 千歳川における耳石標識試験からわかってきたこと

さけます部門千歳さけます事業所の富田主任技術員から、千歳さけます事業所で放流した耳石温度標識魚の回帰状況からわかってきた、回帰率の高い放流時期やサイズに関する知見と、それらを踏まえた今後の取り組みについての報告がありました。

意見交換

最後に、藤井部門長を座長とし、当日紹介したすべての課題を対象とした意見交換が行われ、ベーリング海調査に関する現時点での最新情報や、北日本周辺の海況環境と黒潮大蛇行との関連性、これからの資源造成にプラスとなるような新しい知見の紹介に対する要望、資源の減少が著しい本州太平洋における取り組みの状況や支援の必要性などが話題となりました。

アンケート結果

さけます報告会をより充実させていくため、会場での参加者を対象にアンケート調査を実施しました。「業務に役立つ内容だったか」との問いに対し、「はい」と答えた人が 63%、「まあまあ」と答えた人が 33%、「あまり」と答えた人が 4%でした。



写真 10. さけます部門千歳さけます事業所 富田主任技術員

おわりに

今回のさけます報告会は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、従来とは違う方式を取り入れての開催となりましたが、参加者各位のご理解とご協力により、特にトラブルも無く、無事に開催することができました。この場を借りてお礼申し上げます。次回以降、どのような形式とするかは未定ですが、今回の経験を糧に、さけますに関する様々な情報交換の場として今後も開催して行きたいと思っております。また、皆様から寄せられたご意見・ご要望を踏まえ、より充実した内容となるよう努めてまいります。